

## RAFIQ 2013年度活動報告(13/9~14/8)

### ★ 2013年9月から2014年8月までの特徴

- 難民支援協会からの助成でシェルターが3室になり、生活支援が充実した。
- 初めて申請前に連絡があり申請書提出の支援ができた。
- 弁護士との打ち合わせに参加し、協力するケースが9ケースに増えた。
- RAFIQの活動が広まってきたこと、KV ネットなどのWEBでのボランティア募集を行ったことで、「活動に参加したい」という申込みが増えた。
- 関西・関東とのネットワークが広まり問い合わせなどが増えた。

### ★ 新難民法の実現に向けて

- FRJ(なんみんフォーラム)で新難民法の骨子ができたので、発信や実現に向けた活動に参加する。  
→ パンフレットなどでの紹介。FRJから法務省の「難民認定制度に関する専門部会(以下「専門部会」)」に参加しているので、バックアップ。
- 世界難民の日関西集会の企画団体として日本の難民認定制度の問題点を明らかにする。 → 専門部会の渡邊弁護士の招聘。

### ★ 生活支援

- 空港や港湾から直接入国した方もいるので、仮放免後の支援を PASTEL などとの連携で丁寧に行う。  
→ ガーナ難民 関空→大阪入管→大村  
→ 入国直後の支援 南スーダン
- ガーナ・ベトナム難民について仮放免後の支援を行った。
- 2013年6月から大阪にシェルターを2室確保し、高槻と合わせ3室になった(難民支援協会からのシェルター給付金)。
- 「高槻みんなの家協議会」や「天人グループ」と協力して難民が地域で受け入れてもらえるようにする。  
→ 2014年8月 高槻まつりでのごみ分類ボランティア  
→ 中崎町自治会への参加

### ★ 法的支援(仮放免支援)

- 月1回の西日本入管への定例の面会を行う。
- 西日本入管のみでなく、要望があれば大阪入管や全国の入管被收容者の相談業務も行う。  
→ 大阪入管2名(ガーナ、カメルーン)  
→ 書類など支援3名(スリランカ、チュニジア、ビルマ)。全員仮放免。
- 保証人も含めた日本に身寄りのない難民の仮放免支援を行う。  
→ 3名の保証人に。(ガーナ、トルコ、ベトナム) 全員仮放免。

## ★ 法的支援（入管問題への取り組み）

- 入管の問題については「入管かんさいネット」との連携を行う。
  - 一斉面会に参加。入管への要望書の提出など
- 2014年5月に結核患者が出、RAFIQ 独自で結核患者早期発見と再発防止に関する要望書提出（7月8日）

## ★ 法的支援（難民認定）

- 認定率向上のために、「難民申請時」のフォロー、「異議申し立て」の資料作成などが重要なので重点的に支援する。また本人に難民認定手続きの内容なども知らせる。
  - 9名の支援（イラン、ナイジェリア、エジプト、パキスタン、ガーナ2名、ネパール、南スーダン、ベトナム）
- 弁護士との連携を深めるために「打ち合わせ」に参加し、RAFIQ メンバーや翻訳メンバーも参加するようにする。
  - 翻訳メンバーが増えてきた。
  - 6名の打ち合わせに参加。

## ★ 市民啓発

- 様々な機会を通して市民に難民情報などを発信していく。
  - 難民カフェ 毎月第3火曜
  - 高槻食の文化祭社会貢献のひろば 2013年10月
  - Bブットカフェ（地域活性） 2013年11月
  - ワン・ワールドフェスティバル（国際交流） 2014年2月
- 初級講座「難民についてもっと知りたい」を4か月に1回開催する。
  - 2014年2月にテキストを改正し、100部印刷、ほとんど配布。
  - 2013年9月と2014年2月に初級講座を開催。
- 「入管ってどんなところ？」については面会初参加者向けに随時行う。
  - 面会参加者に毎行行った。
- WEBを活用した広報活動を引き続き行う。日本の現状を世界に発信するために多言語化に向けて英語のHPを充実させる。
  - 2014年3月から始め少しずつ充実してきている。
- 出前講座の開催、学習会などを開催する。また難民に関する取組に協力する。
  - 出前講座 7件
  - 2013/11/23 「大学生×NPO×国連 シンポジウム“無国籍”って？難民と考える無国籍のはなし」
  - 2013/12/11 「誰もが難民になりうる時代に」 国内避難民問題
  - 2013/12/15 ビルマドキュメンタリー「私たちの明日」上映講演会
  - 2014/5/6 緊急学習会「東日本の死亡事故を考える」
  - 2014/6/8 関西学院大学「難民問題を考える～共に生きて行く為に」

## ★ ネットワークの強化

- 2013年10月から新たに「ふーどばんく OSAKA」の協力で難民への食糧支援が始まるので内容を充実させる。
  - ふーどばんく OSAKA と正式契約（2週間に1回コストコなど、随時企業からの食料支援）
- 難民を取り巻く様々な団体とのネットワークを増やし連携していく。
  - 関西：医療支援 済生会吹田病院
  - 国内：カトリック教会イエスズ会「マリアメディカル基金」
    - カリタス「困窮する難民に対する緊急支援」
  - 海外：アジア太平洋難民のネットワーク会議に出席（2013年9月東京）
- KV ネット、京都市民ネットなど、ESD に紹介、大阪府人権局からのヒアリングなども

## ★ NGO の充実に向けて

- 専従者の給料が払える団体を目指して体制や財政などを考えていく。個人負担を減らす。
- 3年計画で進めていく。
- 2013年10月 香港難民支援団体見学
- 2013年12月～2014年5月 NPO 学習会
- 法的支援・生活支援・啓発、政策提言活動を充実させ、専従スタッフ1名 会員100名を目指す。
  - RAFIQ の活動「難民と一緒に暮せる街」が見えるように、見直していく。
  - 助成金への挑戦（助成金には頼らない方針を転換）